

◎探究活動等

令和2年度から、京都府教育委員会が文部科学省WWLコンソーシアム構築支援事業の管理機関に、福知山高等学校が共同実施校に指定されました。

この事業は将来世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材の育成を目指すもので、国内外の大学や企業と連携して高校生に「高度な学び」を提供する場です。

● 高校生サミット

高校生や留学生がSDGsをテーマにオンラインで議論、交流します。

● 海外(オンライン)インターンシップ

京都のグローバル企業の工場を見学した後、海外事業所の方と交流します。

● スマートAP

大学の先生方による全8回のリレー講義を受け、大学の研究につながる課題探究の手法を学びます。



SSN(スーパーサイエンスネットワーク) 京都 指定校

京都府教育委員会の指定を受けた府立高校9校が、「**独創的な科学研究により世界をリードできる人材の育成**」に取り組んでいます。本校では総合的な探究の時間「みらい学」や「みらい考」、自然科学部の活動を中心に様々な興味・関心に応じた科学研究を行い、発表を通じて他校との交流を行っています。

● サイエンスフェスタ

SSN京都の指定9校が集まり、京都大学等を会場に、それぞれが行ってきた研究について発表を行い、交流を深めます。一昨年度からは京都府北部を会場とした「海の京都サイエンスフェスタ」をはじめ、本校もそのメンバーとして、北部の科学教育の発展や交流に貢献しています。



みらい学

文理科学科の「総合的な探究の時間」です。大学での学びを見据えた研究活動を行い、その中で**研究に必要なスキルの習得や正解のない問題へのアプローチの仕方等を学びます**。神戸大学や福知山公立大学の先生の講義を受け、より専門的な立場からアドバイスをいただきます。みらい学研究交流会や研究発表会をとおして、研究成果を発表します。

昨年度の研究テーマ(一部)

2年「光照時間はアカハライモリの再生にどのような影響を与えるのか」

「余剰食品を用いたボールペンインクの製造」

1年「福知山産米の地産地消によるフードマイレージ削減は可能か」

「『おばあちゃん食堂』は綾部市民のニーズを捉えているか」



みらい考

普通科の「総合的な探究の時間」です。自分を見つめ、適性や興味・関心に応じた進路について考える「キャリア学習」、各自の興味・関心と、社会の問題や自分の進路に関連した「探究学習」を行い、今後の人生において様々な問題に直面したとき、**それに対応するためのスキルや表現力、PDCAサイクルの重要性等を学びます**。グループによるディスカッションやコミュニケーションをとおして、社会人としての基礎力を磨きます。

昨年度の研究テーマ(一部)

2年「京都の動物の殺処分件数を0にするには」

「コロナ禍で増えたプラスチックゴミを削減するために何ができるか」

1年「学校のバリアフリー化について」

「大江の鬼に興味を持ってもらうには」



文理科学科
3年生

保田 菜々子

● 舞鶴市立
城南中学校出身

みらい学は、興味のあることに主体的に取り組めばきっと有意義な時間になると思います。私自身、研究を行うなかで多くの失敗をしましたが、それでも前向きに実験を重ね、最終的に研究成果を発表したときには大きな達成感を得ることができました。また、同じ目的を持つ仲間や先生方との関わりを通じて、協調性や課題解決力が身に付き、スキル面においても大いに成長できたと実感しています。



文理科学科
3年生

宮本 天音

● 福知山市立
映峡中学校出身

みらい学は、自分の興味のあることを深く研究できるため、とても楽しいです。私の場合は、1年次はグループで、2年次は個人で行い、同じことに興味を持った仲間と語り合うことの楽しさや、主体的に行動することの大切さを学ぶことができました。



普通科
2年生

大西 芥笙

● 綾部市立
八田中学校出身

みらい考では5、6人がチームを組み一つのテーマについて話し合います。いろいろな意見が飛び交うので「こんな考え方もあるのか」と刺激を受けます。最終的にみんなでまとめたことを発表し大きな達成感を味わうことが出来ました。



普通科
3年生

桐村 佳典

● 美術部
福知山市立
川口中学校出身

僕はみらい考で、自分の興味や関心、身近な疑問などから課題を設けて、どのようにその課題を紐解いていくか計画を立てる力がつきました。他の人の発表やレポートを見るのも、新しい興味が生まれ面白いです。